

原 強 プ 第 9 号  
平成29年10月13日

島根県知事 溝口善兵衛様

中国電力株式会社  
代表取締役副社長執行役員  
原子力強化プロジェクト長  
小川 司 徳

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する  
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成29年9月22日に開催された、第18回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第18回原子力安全文化有識者会議 議事概要

以上

## 第18回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 平成29年9月22日(金) 14時00分～16時25分
- 開催場所 島根県民会館(大会議室)
- 出席者 〔社外委員〕 亀城委員, 高尾委員, 高橋委員, 豊田委員(座長), 野津委員  
※梅林委員, 山浦委員は欠席  
〔社内委員〕 小川原子力強化プロジェクト長, 迫谷副社長, 岩崎常務

### ○ 議事内容

#### 1. 開会あいさつ(小川幹事)

- ・ただいまから、「第18回原子力安全文化有識者会議」を開催する。
- ・委員の皆さまにはご多用の中、本会議に出席賜りお礼申し上げます。
- ・一昨年判明した「低レベル放射性廃棄物に係る流量計の不正事案」に対する再発防止策のうち、唯一未実施となっていた、「設備を統合的に管理するシステムの改良」は、計画どおり4月から運用を開始した。今までのところ稼働状況は良好であり、確実な業務管理に有効であると考えている。
- ・これで全ての再発防止対策が「実施済」もしくは「実施段階」となったが、引き続き、有識者会議において委員の皆さまからご提言を頂きながら、確実に実施するよう取り組んでまいります。
- ・本日は「低レベル放射性廃棄物に係る流量計の不正事案」と「点検不備問題」に係る再発防止対策の取り組み状況および「中国電力で働くほこり」の回復に向けた取り組み状況について報告するので、ご意見・ご提言を賜りたい。

#### 2. 議事

- (1) 「低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題」および「点検不備問題」に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて
- (2) 原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて

資料に基づき、電源事業本部部長 古川および原子力強化プロジェクト部長 今浦から「『低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題』および『点検不備問題』に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて」および「原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて」を説明した。

主な意見は、以下のとおり。

〔再発防止対策の実施状況に対する意見〕

- ・再発防止対策について、問題を掘り下げながら今日まで努力してきちんと取り組まれている。
- ・交流行事に参加したが、そこでは発電所や協力会社の皆さんの笑顔や話し方、前向きな姿勢を見て、自信を持っているという印象を受けた。
- ・様々な原因を丁寧に分析し、十分に検討されている。効果や評価も詳細に行われ、PDCAも回っており、質の高い取り組みが実施されている。引き続きしっかりと対応していただきたい。
- ・管理者は、大変忙しそうである。特に、新任のライン管理者はより責任を感じていると思われるので、上司は十分なフォローをしていただきたい。

〔原子力安全文化醸成に向けた取り組みに対する意見〕

- ・ 所長や役員に対しては、言いたいことが言えない場合がある。若い人のプロジェクトを作り、職場の将来について自由に意見を出しあい、それを上申するという取り組みを行ってはどうか。
- ・ アンケート結果の「中国電力で働くほこり」が持てないことの中身の分析が目的ではなく、そこから引き出したものを今後活かすことが大事である。今年度の取り組みにあるアンケートの設問の工夫によって、アンケートの回答者自身も、今まで意識していなかったことに気付くようなツールになることを期待する。

(3) 情報提供：原子力部門人材育成プログラムの実施状況について

(4) 情報提供：島根原子力発電所2号機新規規制基準への適合性審査状況について

(5) 情報提供：島根原子力発電所1号機の廃止措置について

電源事業本部部長 田中から「原子力部門人材育成プログラムの実施状況について」、島根原子力発電所所長 山本から「島根原子力発電所2号機新規規制基準への適合性審査状況について」および「島根原子力発電所1号機の廃止措置について」を情報提供し、質疑を行った。

### 3. 閉会あいさつ（小川幹事）

- ・ 委員の皆さまには長時間にわたり貴重なご意見を賜り、お礼申し上げます。
- ・ 本日説明した取り組みを有効に機能させ、社員一人ひとりの心に浸透させ、それが行動の場面に落とし込まれていくという状態を目指しながら、一つひとつ取り組んでまいりたい。
- ・ 当社は、10月から分社化に向けた新しいモードに入っていくところであり、その取り組みをする中で企業理念を「信頼」「創造」「成長」というシンプルなものにした。これを掲げ、新しい時代に向けて取り組んでいこうとしている。
- ・ 原子力部門に係る取り組みは、今までの取り組みを継続しつつ、さらに深化させて社員の行動に落とし込んでいきたい。
- ・ 委員の皆さま方には、貴重なご意見をいただいたことに感謝するとともに、引き続きご支援・ご提言を賜ることをお願いして挨拶とさせていただきます。

以上